

科目ナンバリング		U-LAS06 10007 LJ43									
授業科目名 <英訳>		経済学Ⅰ Economics I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 大黒 弘慈			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	法・政治・経済(基礎)			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月2/月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
規格化された経済学をそのまま祖述するのではなく、経済学の歴史を、おもに貨幣という視角から通覧することによって、経済学への導入を図る。経済学の歴史を通覧すると、マルクス経済学と近代経済学の2つだけでなく、学派の数だけ3つも4つも、あるいはそれ以上に理論が存在することを思い知るであろう。しかしこのことは、理論が時代と地域の特殊性に制約されるという、ありふれた相対主義を意味するわけではない。この講義では、経済学の隣接諸分野をも射程に入れて、異分野にまたがる初学者を経済学に導き入れる工夫をする。それと同時に、経済学のあらたな対立軸を模索することを試みたいと思う。前期の経済学Ⅰでは、経済とは何か、経済人とは何か、貨幣とは何か、という本質的問いを古典古代にまで遡って追究する。											
[到達目標]											
教科書化された既成の経済学の断片的知識を習得するのではなく、経済とは何か、貨幣とは何か、資本主義とは何かという本質を問う姿勢を身につける。前期はおもに、古代・中世にまで遡ることによって、経済（オイコノミア）の源流＝本質を探ることを目指す。											
[授業計画と内容]											
以下のようなテーマについて、各1～2回で考察する。 1．経済学の方法 考古学と系譜学 （単線的な歴史観を相対化する） 共和主義研究、経済人類学、世界システム論 （古代的なものの意義を確認する） 貨幣数量説と貨幣的経済理論 （貨幣の二元性を浮き彫りにする） 2．アリストテレスと貨幣の無限 シュンペーターとマルクス （両者の貨幣理論を比較する） プラトン （表券主義的貨幣観を検討する） アリストテレス （金属主義的貨幣観を検討する） 3．中世の経済思想 トマス・アキナス （公正価格と高利反対について検討する） オレームとコペルニクス （鑄造貨幣論と地動説の照応を発見する） グレシャムの法則											
----- 経済学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓ -----											

経済学Ⅰ(2)

(貨幣の二元性を再確認する)

4. 重商主義と貨幣の資本機能

重金主義

(グレシャムの法則から価格革命への移行を説く)

貿易差額主義

(富としての貨幣から資本としての貨幣への移行を説く)

紙幣重商主義

(信用創造の先駆をローに即して説く)

なお、必ずしも上記計画通り進まない場合がある。
(授業回数はフィードバックを含め全15回とする)

[履修要件]

経済学 (大黒担当) の連続した履修が望ましい。

[成績評価の方法・観点]

期末試験の成績による(レポート試験の場合はその旨授業で指示する)。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

大黒弘慈『模倣と権力の経済学：貨幣の価値を変えよ(思想史篇)』(岩波書店) ISBN:978-4000253208

大黒弘慈『マルクスと贋金づくりたち：貨幣の価値を変えよ(理論篇)』(岩波書店) ISBN:978-4000253215

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

比較的早い時期に、経済学史を通覧した簡便な本を通読しておくことが望ましい。経済学史上の古典を一つ選び、講義の進行とともに読み進めると学習効果が上がる。

[その他(オフィスアワー等)]

詳細な授業計画を、初回に配布する予定である。

[主要授業科目(学部・学科名)]

総合人間学部